地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	子母口学童保育たんぽぽ
-----	-------------

取組の名称	広げる地域と人の輪
実施場所	子母口学童保育たんぽぽ 及びその周辺地域 公園など
対象地域	高津区子母口・蟹ヶ谷を中心とする地域
対象地域の特色・課題	昔ながらの住宅街で、長年地域に住まう家庭、3世帯以上で同居する家庭がある一方、新たな住宅が建てられ、移り住んできた核家族も多い。様々な境遇や家庭事情を抱える家庭が積極的に交流できるきっかけ作りが必要と考える。
取組の趣旨・目的	子母口学童保育たんぽぽはこれまで「家庭・学校・地域」と連携し、子ども達の放課後の過ごし方が安全で安心できるものになるよう取り組んできた。定員30名程の小さなコミュニティであるが、保護者だけでなく、ベテラン支援員、若手支援員、保育歴の長いサポートスタッフが日々、子ども達の保育に当たり、社会性、人間関係を築く力、自分たちで問題を解決しようとする力など、様々な力を育める様にしてきた。また、民生児童委員、ボランティアで保育に協力して下さる地域の高齢者の方、卒業したOB・OG生とその家族など幅広い層の人が子ども達の成長を見守り、活動を支えてくれている。この子母口学童保育たんぽぽを拠点に、地域の子供達が関われる場や保護者同士が関わりをもてる場を提供することで、つながりのある地域作りの一助となると考える。「地域社会全体で子供・若者を見守る」ために、子母口学童保育たんぽぽでは以下3テーマを軸とし、地域住民の方と連携することで多様な取り

	<p>組みを進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供たちが安心できる居場所づくり 2. 地域家庭を応援する仕組みづくり 3. 文化的交流を通じた地域とのつながりづくり
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>「地域社会全体で子供・若者を見守る」ために、学童保育たんぽぽでは以下3テーマを軸とし、地域住民の方と連携することで多様な取り組みを進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供たちが安心できる居場所づくり 2. 地域家庭を応援する仕組みづくり 3. 文化的交流を通じた地域とのつながりづくり <p>以下、各テーマの概要及び具体的な取り組み内容について記載。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供たちが安心できる居場所づくり <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きが進展する中、放課後に児童がのびのびと自分らしく過ごすことのできる居場所の重要性が高まっている。保護者と支援員が協力して運営する自主学童保育の運営を通じて、地域の子供たちの健全な育成を行った。土日祝、夏季休暇、年末年始休業以外の日に開室。 <p>■活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの活動を実施 <p>(1) 年間保育行事</p> <p>たくさんの経験を通じて、子供たちの健やかな育成を行うことを目指し、季節ごとに様々なイベントを行った。具体的には以下のようなイベントを実施。例) 買いおやつ、誕生日会、工作の日、子ども主体の昼食作り、駄菓子屋さん、新1年生歓迎会、遠足(公園、プール、水族館、野外炊事など)、高学年合宿、ケーキ作り、文集製作、卒室・進級お祝い会、避難訓練、防災学習会、枝豆の収穫、夏祭り(OB中学生、保護者 幼児さんも参加)</p> <p>(2) 各種会合 支援員会議 / 役員会 / 保護者会(月1回程度) 各委員会(年4-5回) 運営委員会(年1回)</p> <p>(3) 保護者会行事 ①親子交流会(6月) ②たんぽぽバ</p>

ザー（7、11月）③宿泊キャンプ（8月）

2. 地域家庭を応援する仕組みづくり

■概要

・物価高や円安が進行する中、経済的に困窮している家庭が増加している。また、周囲に子育てについての悩みを相談する相手がおらず、精神的にも疲弊している家庭も見受けられる。子供のいる地域家庭に対して、「食」を中心とした支援を進めることが出来た。

■活動内容

（1）たんぼぼ食堂

年間6回（平日の夕方・土曜の昼）、パック詰めをした炊き込みご飯などを配布／販売。1回40～50食を用意した。子供は無料、大人は¥100/食。チラシやたんぼぼHP内で周知。周辺小学校などへもチラシを配布し、子どもの支援にもつなげられた。地域に根付いた子母口学童保育たんぼぼとしての利点を生かし、利用しやすく、親しみやすい、たんぼぼ食堂の輪を拡げられた。

（2）フードドライブ

家庭で余った消費しきれない未利用食品などを、自治体やフードバンク団体へ提供する「フードドライブ」を実施した。チラシ、ホームページ、SNSを利用して定期的に地域へ呼びかけを行った。回収BOXをたんぼぼ前に学童実施時間内の毎週火・木13～17時(夏季除く)に設置。回収した食品や日用品は定期的に川崎市社会福祉協議会などへ寄付した。

3. 文化的交流を通じた地域とのつながりづくり

■概要

・核家族化の進展により地域との関係が希薄化している現状を踏まえ、様々な文化的活動を通じて、子どもを育てる家庭と地域住民のつながりを深めることで、より安心して子供が成長できる地域づくりを支えることが出来た。

■活動内容

（1）かき氷の日（8月29日実施）

近隣の子供たちを対象にかき氷を無料で提供した。開催日

	<p>当日は大雨で例年より来る方は少なかったが、たんぽぽOBの中学生達が来てくれて、和気あいあいと楽しんでいた。</p> <p>(2) 親子でハンドケア (1月19日実施) 近隣でヒーリングサロンを開かれている方を講師にお呼びして、ハンドケアを通して親子のスキンシップを図る事、これをきっかけに改めて親子の繋がり大切さを感じてもらえた。</p> <p>(3) 茶道教室 (2月26日実施) 茶道のお免状をお持ちの地域の方をお呼びし、お点前を披露していただき、茶道についてご指南いただいた。茶道に触れる機会が少ない、地域の子ども達にいつもとは違う「お茶」と作法を体験してもらい、和の心を感じられる貴重な経験が出来た。</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>1 : 小学生 2 : 未就学児や小学生とその保護者～高齢者 3 : 未就学児や小学生とその保護者</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>1 : 30 名程度 2(1) : 50 名程度、 (2) : 定員なし 3(1) : 60 名程度、 (2) : 30 名程度、(3) 30 名程度</p>
<p>実施頻度</p>	<p>1 : 240 日 2(1) : 年間 6 回 2(2) : 87 日 3(1)～(3) : それぞれ年 1 回</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>1 : 240 日 2(1) : 6 日、2(2) : 87 日、3(1)～(3) : 各 1 日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>1、2、3(1) : 保護者会 (たんぽぽを利用する家庭で構成)、保護者会より 5－7 名の役員、運営委員 3 名、専任支援員 2 名、常勤支援員 3 名 3(2) : 保護者会、近隣の講師 3(3) : 保護者会、専任支援員 2 名、常勤支援員 3 名、地域のボランティア</p>		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>1： 子母口/新城小学校 毎年、学童児の名簿を提出。緊急時の引き取り等連携確認を行っている。4、5月は、新1年生の下校サポートとして学童支援員が付き添って下校しており学校側も「たんぼぼ」で1グループ組んでくれて、スムーズな引き渡しができている。</p> <p>2： ・フードドライブかわさき、市社会福祉協議会 たんぼぼで回収した食料品や日用品を寄付した。</p> <p>3： ・近隣の講師（親子ハンドケア） ・地域ボランティア（茶道の先生）</p> <p>1～3： ・運営委員（民生委員含む）に、地域交流活動への参加/協力を依頼。 ・近隣保育園・幼稚園 チラシの配布を依頼し、参加を呼びかけた。</p> <p>全ての取り組みにおいて、民生委員と連携が可能であり、支援が必要な子どもを発見することがあれば、行政を始め適切な支援やサービスへとつなぐ事が出来ると考えている。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>1. 子供たちが安心できる居場所づくり ・保護者と支援員が協力して運営する自主学童保育の運営を通じて、地域の子供たちの健全な育成に資することができた。 ・年間を通しての交流活動により、異学年の児童の保護者同士が繋がりをもつことができ、新たな関係を築く事で、子ども達を見守る地域の目を増やすことができた。</p> <p>2. 地域家庭を応援する仕組みづくり ・子供のいる地域家庭に対して、「食」を中心とした支援を進めることにより、物理的・精神的両面から地域家庭の支援に寄与出来た。 ・食を必要とする方に食品を寄贈する取り組みであるフ</p>

ードドライブについては、子母口学童保育たんぽぽがフードドライブの窓口になることによって、地域にフードバンクの存在をアピールでき、より多くの人に周知することを可能とした。

- ・たんぽぽ食堂は地元密着型なので、食事を必要としている子ども達や家庭が必要とする時に温かいごはんを提供できる。平日以外にも実施することでより多くの方に利用して頂くことができた。

- ・上記2つの取り組みにより、困難な生活状況にある家庭や子どもへのケアを推進することができた。

3. 文化的交流を通じた地域とのつながりづくり

- ・様々な文化的活動を通じて、子どもを育てる家庭と地域住民のつながりを深めることで、より安心して子供が成長できる地域づくりに貢献できた。

- ・普段から子どもに関わる立場の支援員がいる学童という場所の特色を生かし、保育内での活動やイベントを地域へオープンにする事で、安心して地域の子どもも関われる居場所を作ることができた。